

竜王小学校 学校関係者評価書

平成30年2月13日（月）

竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成30年2月9日（金）午後3時30分～午後4時30分

会場：竜王小学校会議室

参加者：学校評議委員：塚川美恵, 篠原美代子, 碓井和幸, 小尾平明, 小尾公夫
PTA 本会役員：島田明人, 藤恵子（欠席）
学校側：校長 奥山賢一, 教頭 近藤健一, 主幹 内藤賢, 教諭 平沼公香

I 学校側から提案された内容

学校評価実施結果の概要について

- ・教職員自己評価の調査結果について
- ・児童アンケート, 保護者アンケートの調査結果について
- ・今年度の評価結果と過去2年間との比較と改善状況について（自己評価書）
- ・今年度の学校評価結果から見えた課題と改善策

II 協議された主な内容

1 学校教育目標・学校経営・学校運営について

いずれも肯定的評価率が昨年度までと比べ高くなっていることから概ね良好な学校運営がなされている。ただし、より安全な学校体制を維持するために、危機管理マニュアルの一層の理解を深めると共に、児童家庭への目標の徹底に関して、教育基盤である学習規律を職員全体で積極的に啓蒙できるようにする。

2 学習指導について

組織的に研究を進める本校の取り組みの成果が表れ、全般的に概ね満足できる学習指導への取り組みが行われてきている。学年主任を中心に確認し、評価を明確にした授業を行うこと、教材の活用については教師間でも活用法を学び合い、効果的な指導ができるようにしていく。また、家庭学習をあまりしていない割合が増えてきているため、改善を図る。

3 生徒指導について

高い達成率を示している。特に、学習規律「竜の子15箇条」は本校の学習活動全ての基盤であることから、今後も重視したい。生き方教育、問題行動対応にはC回答があるが、自らのキャリア発達を促す教育が必要であることを確認したり、児童が安心して楽しく過ごせることは学校生活の基本であることを踏まえ、忙しい中でも教職員と児童のコミュニケーションをとれる時間を確保したりする。

4 地域との連携について

ほぼ肯定的評価となり概ね良好であるが、地域、保護者の連携について教職員の立場によっては直接見えない部分があり、他領域よりA回答が低くなる傾向にある。新学習指導要領では、地域との連携・協働が今後ますます重要になってくることから、学校と地域との協働を意識して教育活動をつくっていく必要がある。

5 学校の特色について

どの項目でもA回答率が高く、特色を生かした活動ができていることがわかる。特に「挨拶活動」への指導は徹底されていることが伝わってくる。読書活動、伝統的な行事を大切にしたい児童会活動と、取り組みを深めていきたい。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

「学校は楽しい」と感じている児童が90%以上であることから、先生方が熱心に指導されていることがわかった。保護者アンケートでの「学校は楽しいところだと思う」の結果も同様であることから、児童を通して学校のことが保護者に伝わっていると感じる。先生方の指導が浸透していることが感じられる。

II 特徴

1 家庭学習の時間について

宿題を親が○つけるという低学年などの取り組みが、親の宿題となり働いている母親への負担になる場合がある。家庭で○つけし、お直しをみるというのは、ごく当たり前のことなのだが、共働きなど環境によってはみてあげられない家もあり、学力の差につながっているのではないかと。また、学童保育に通う児童は、宿題をやりきれない場合、続きを家でやることになる。遅くまで仕事をしている親にとって時間がない中で負担となり、困っているとの声もあるので、地域で支えられる体制ができるとよい。仕事で疲れている親は、宿題のことで子どもを責めてしまうこともありがちで、なかなかみてあげられないのが現状だと思う。アンケートで、このような現状も把握できるとよい。

2 児童とのコミュニケーションについて

児童とのコミュニケーションについて、「困ったときに相談できる先生がいる」という項目で70%台であることに驚いた。先生方と児童とのつながりができていると感じた。コミュニケーションを育むあいさつの取り組み(ハイタッチ)など、今後も継続して続けて欲しい。

3 プログラミング教育について

公開研究会で、プログラミングの授業を見た。子どもたちが非常に楽しんでいる様子、みんなで修正・改善しながら作業していく姿を見られてよかった。素晴らしい取り組みであると思った。教育の中にそういう環境をたくさん作って欲しい。

4 保護者、教職員の多忙について

それぞれ大人が忙しすぎるのではないかと。働き方改革での勤務時間の制限は、会社や学校には厳しいシステムだろう。逆に職場での仕事が大変になっている。多くの家庭は共働きをしているので、子どもの教育に時間がまわらない。最低限のあいさつや生活の仕方について、各家庭でできることを探っていく意識が必要だと思う。一方、今回の学習指導要領改訂は、限られた時間の中で何も削らないところに新しいことをつけ加えるだけであり、多忙化は、先生方を追い詰めていく。国から言われたことを全てやる体制が大変さを生んでいるのではないだろうか。精神的に病む先生方が増えると言われていて心配である。全ての教科に共通する指導を徹底するなど、効果的・効率的な方法を探っていく必要がある。学校の状況を行政に伝える方法を考えていかななくてはならない。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・今年度より教職員自己評価のAB評価が表す内容に変更があったが、年々肯定的評価率は高まり、子どもたちのために先生たちが一生懸命努力する様子が伝わってきた。学校の特色づくりも進んでいるので、今後も大切にしていきたい。
- ・保護者も教職員も多忙の中で、子どもたちのためにどのように教育を行うかを探っていく必要はない。学校では効果的・効率的な学習を、家庭では最低限できることをしていく意識が必要である。共働きの家庭の教育を支援できる地域の体制づくりの必要性等、現状を行政に伝える方法を考えていかななくてはならない。

※特記事項 なし

記載責任者 竜王小学校 学校関係者評価委員 氏名：小尾 平明 印

